



「量より質を求め、利益をしっかりと取れるようにしたい」と展望を語るのは、産業ガス卸売業の三光堂(岐阜市本荘中ノ町)の大野正和会長CEO(81)。酸素や窒素、水素、ヘリウムなどを取り扱い、8月1日で創業80周年を迎える。産業ガスを排出、生成する国内工場の減少に加え、最近はロシアによるウクライナ侵攻やイラン情

近況 80周年、量より質追求

勢の不透明化で半導体製造に欠かせないヘリウムは調達難となり、産業ガスの価値が高まっている。「値上げが進み、業界にとってはいい風は吹いている」と話す。農作物の鮮度保持や品質管理に産業ガスを使う需要は伸びており「海外に持っていくなら、長く保存できるガスがいい」と説明する。

10年ほど前、社員の能率を上げるために、午後1時30分～同2時15分の間には昼寝をしてもいいこととして、社屋にハンモックのある部屋も整備した。「数字の打ち間違いなどミスがなくなった」と語る。社員の健康管理にも気を配り、トレーニング室も完備した。